

②周辺地下水環境への影響予測

図-6.6.2(9)に空港建設前と建設後における10年確率降雨時の地下水位分布変化図を示す。ドレーン層を設置する空港盛土直下の箇所は、建設前に比べ地下水位がやや低下するが、海岸近傍の箇所ではほとんど現況水位と同一レベルの分布状況を維持するものと予測される。

さらに、各地下水位観測地点の地下水位データを基に、より詳細に空港建設による影響を検討した。

図-6.6.2(10)にB-11地点、図-6.6.2(11)にB-23地点の現況及び盛土完成後の地下水位変動解析結果を示す。

B-11地点では現況状態の計算値(緑線)に対し、空港建設後の水位予測値(青線)は全体に0.3~0.8m程度水位が低下するとの予測結果となった。しかし、より海岸線に近いB-23地点では、現況状態の計算値と空港建設後の水位予測値の差は最大でも0.15m以内に収まる。特に降水量が減少し全体に水位が低下する期間には、その差はほぼ0.1m以内に収まるため、塩淡水境界の変化など空港建設による直接的な変化はほとんどないと予測される。

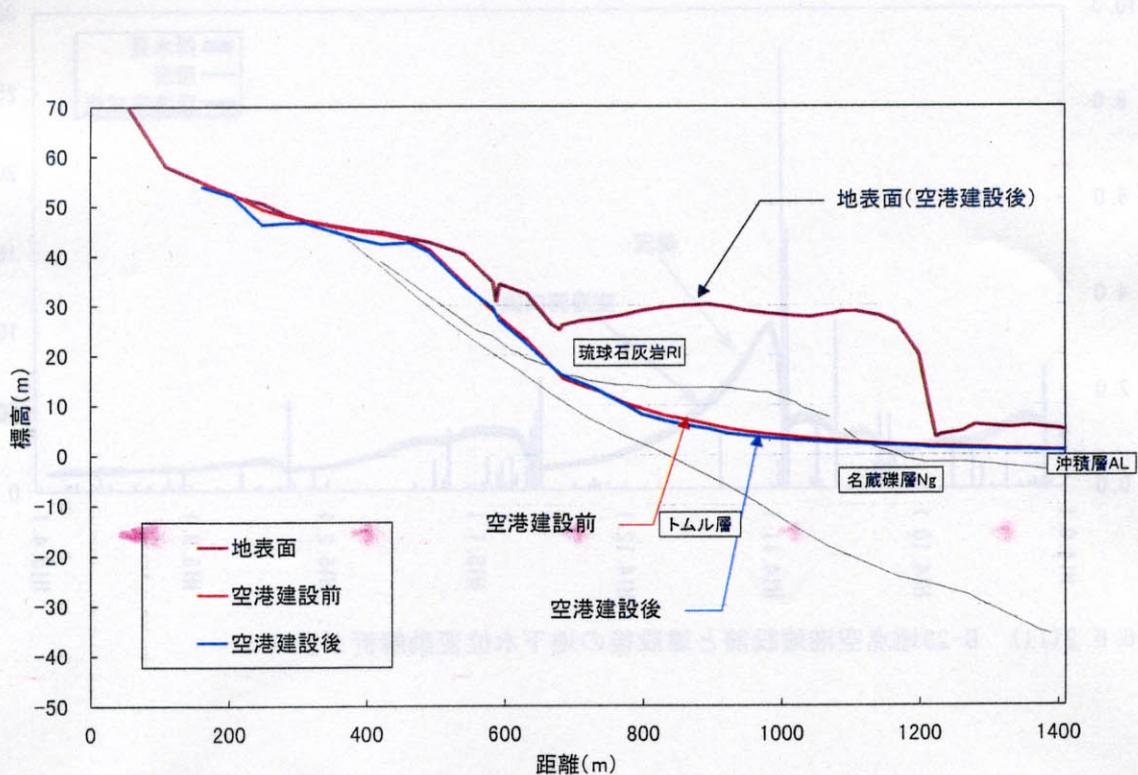


図-6.6.2(9) 空港建設前と建設後における10年確率降雨時の地下水位分布変化図